

告 白

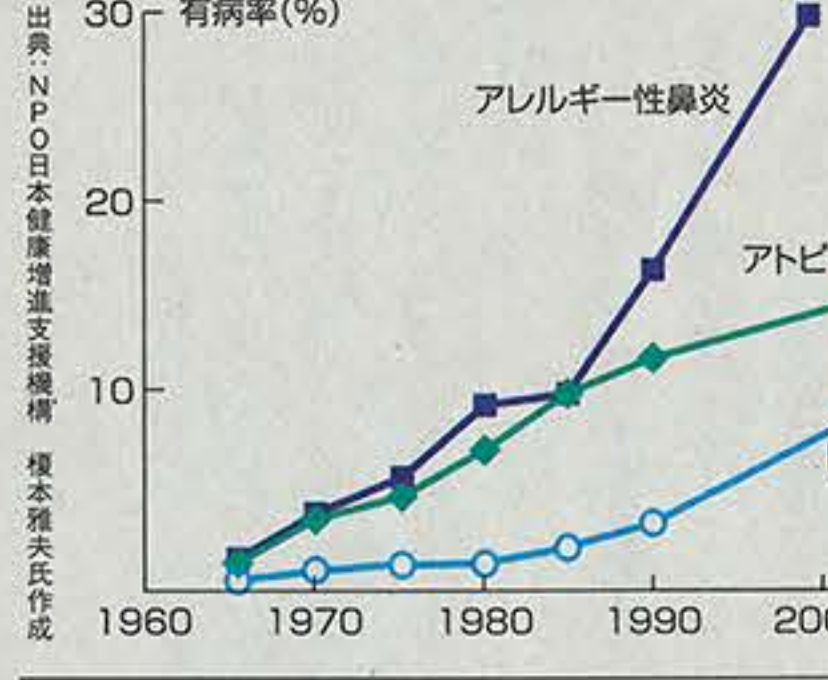


医学博士 鳥居新平 先生

名古屋大学名誉教授・アレルギー科こどもクリニック院長 専門は臨床免疫学、アレルギー学、小児科学、日本小児アレルギー学会会長、日本アレルギー学会会長、厚生労働省特定用途食品検討部会委員などを歴任。日本を代表するアレルギーの専門家。著書に「小児ぜん息・アレルギー疾患治療法HANDBOOK」(医歯薬出版)、「子どもの食事とアレルギーQ&A」(共著・第一出版)など。

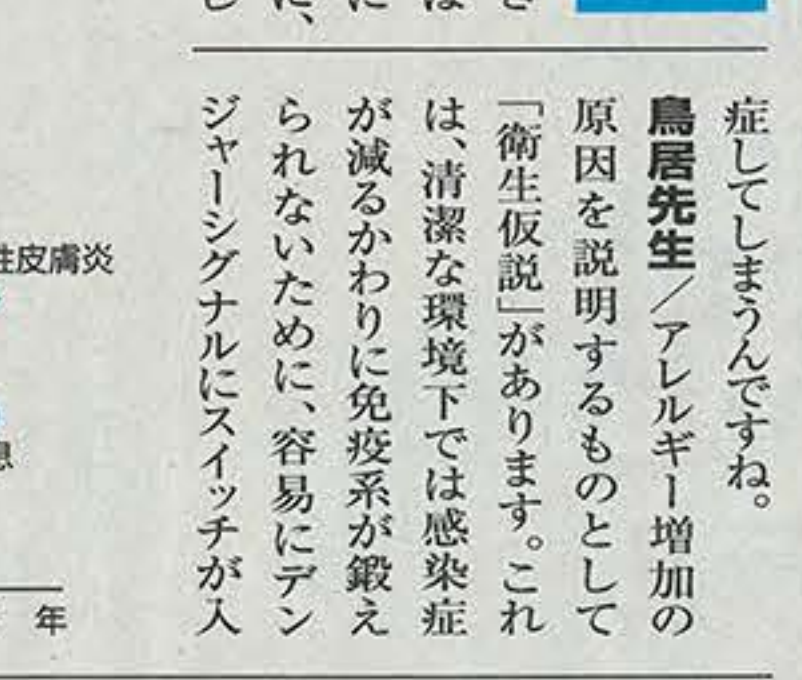
「アトピー性皮膚炎や「通年性鼻炎」「花粉症」や喘息をはじめとするアレルギー疾患は、世界的に増加の一途をたどっている。日本でも4000万人以上、国民の約3割が何らかのアレルギーを持っているという。季節や環境、日々のストレスなど発症の要因はさまざま。これらに敏感に反応する現代人のカラダに、有効な成分があるという。日本アレルギー学会などで活躍されているアレルギーの名医お二人に、最新の研究成果と注目のアレルギー対策についてお話をうかがった。

●日本におけるアレルギー疾患の増加(図1)



環境や生活習慣がもたらす皮膚バリアー障害 鳥居先生/アレルギーには環境や生活習慣が深く関わつて

●アレルギー発症メカニズム(図2)



免疫バランスの崩れからアレルギーは発症する 鳥居先生/そもそもアレルギーは免疫バランスの崩れに

「アトピー性皮膚炎や「通年性鼻炎」「花粉症」や喘息をはじめとするアレルギー疾患は、世界的に増加の一途をたどっている。日本でも4000万人以上、国民の約3割が何らかのアレルギーを持っているという。季節や環境、日々のストレスなど発症の要因はさまざま。これらに敏感に反応する現代人のカラダに、有効な成分があるという。日本アレルギー学会などで活躍されているアレルギーの名医お二人に、最新の研究成果と注目のアレルギー対策についてお話をうかがった。

「アトピー性皮膚炎や「通年性鼻炎」「花粉症」や喘息をはじめとするアレルギー疾患は、世界的に増加の一途をたどっている。日本でも4000万人以上、国民の約3割が何らかのアレルギーを持っているという。季節や環境、日々のストレスなど発症の要因はさまざま。これらに敏感に反応する現代人のカラダに、有効な成分があるという。日本アレルギー学会などで活躍されているアレルギーの名医お二人に、最新の研究成果と注目のアレルギー対策についてお話をうかがった。

「アトピー性皮膚炎や「通年性鼻炎」「花粉症」や喘息をはじめとするアレルギー疾患は、世界的に増加の一途をたどっている。日本でも4000万人以上、国民の約3割が何らかのアレルギーを持っているという。季節や環境、日々のストレスなど発症の要因はさまざま。これらに敏感に反応する現代人のカラダに、有効な成分があるという。日本アレルギー学会などで活躍されているアレルギーの名医お二人に、最新の研究成果と注目のアレルギー対策についてお話をうかがった。

アレルギーケア 最新NEWS 2013

話題のアトピー対策 L-92乳酸菌

アレルギーケアの名医2人が語る

医学博士 池澤善郎 先生

横浜市立大学名誉教授・国際医療福祉大学教授(同大学熱海病院上席副院長、医務局長) 専門はアトピー性皮膚炎、蕁麻疹、薬疹、接触皮膚炎など。日本接触皮膚炎学会会長、日本職業環境アレルギー学会会長、日本皮膚アレルギー学会会長、日本皮膚科学会東京支部学術大会会長、日本アレルギー学会会長、東京都アレルギー疾患対策検討委員会委員などを歴任。著書に「アトピー性皮膚炎 ここまで分かった!」(こころ出版)、「アレルギー」(講談社)など。

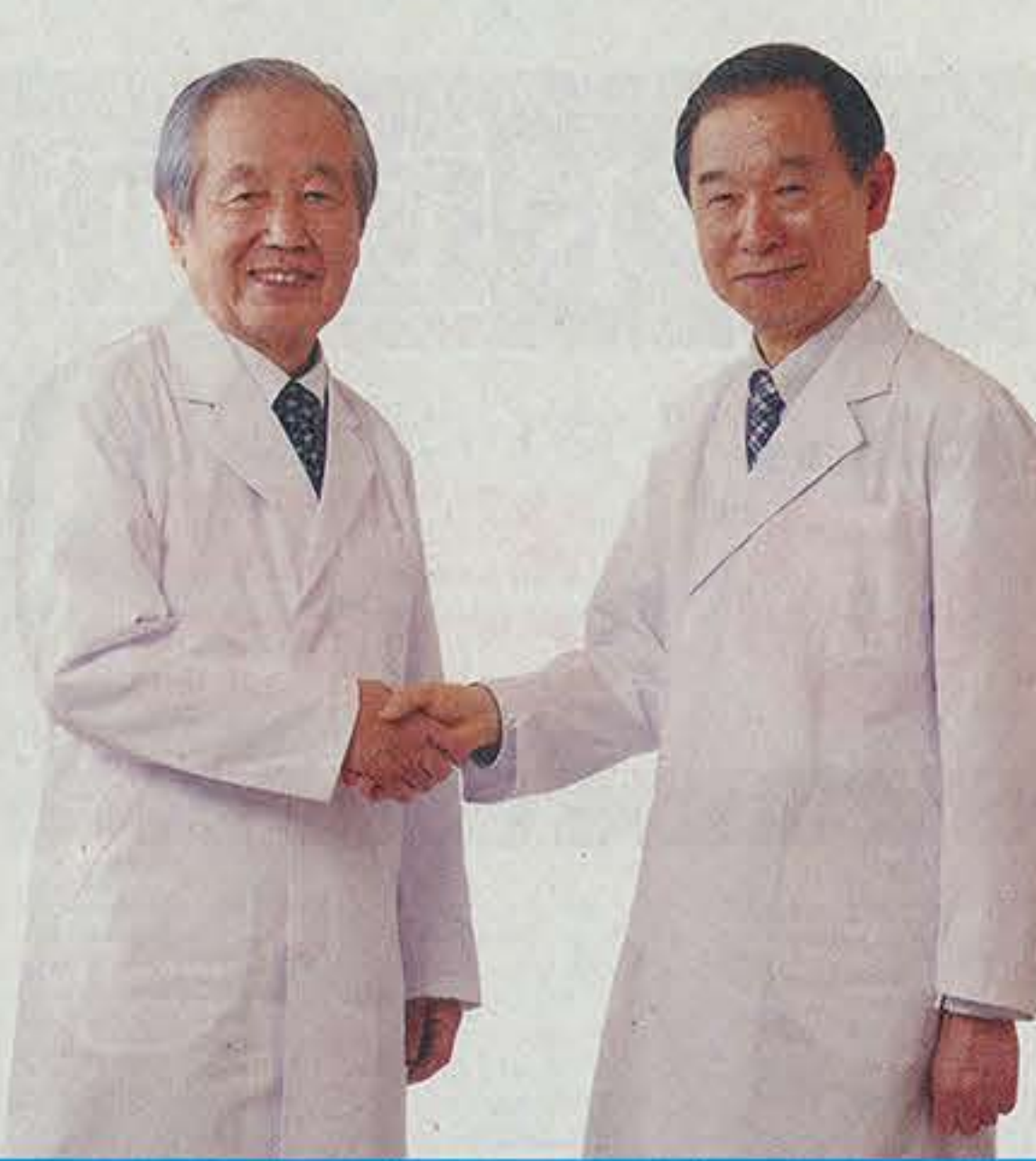
「L-92乳酸菌」最新情報! 成人アトピー性皮膚炎への有効性も学会で発表 4歳から15歳までの患者を対象に、日本臨床腸内微生物学会にて発表した左にある図3、図4の症状改善データに続き、2012年11月30日の第62回日本アレルギー学会秋季学術大会では、さらに最新の研究成果が発表された。その内容は、成人アトピー性皮膚炎に対する「L-92乳酸菌」の有効性が認められたというもの。アレルギーに悩む多くの方にとって、まさに朗報と言える研究結果だ。

「L-92乳酸菌」の有効例の比率(図4) 著しく有効 10%、やや有効 10%、有効 70%、変化なし 10%。図3: 「L-92乳酸菌」による皮膚症状の変化(図3) 重症度指数の変化。試験期間(週) 0, 4, 8。プラセボ(●)とL-92乳酸菌(■)の比較。p<0.05。

「L-92乳酸菌」による皮膚症状の変化(図3) 重症度指数の変化。試験期間(週) 0, 4, 8。プラセボ(●)とL-92乳酸菌(■)の比較。p<0.05。

「L-92乳酸菌」の有効例の比率(図4) 著しく有効 10%、やや有効 10%、有効 70%、変化なし 10%。

「L-92乳酸菌」による皮膚症状の変化(図3) 重症度指数の変化。試験期間(週) 0, 4, 8。プラセボ(●)とL-92乳酸菌(■)の比較。p<0.05。

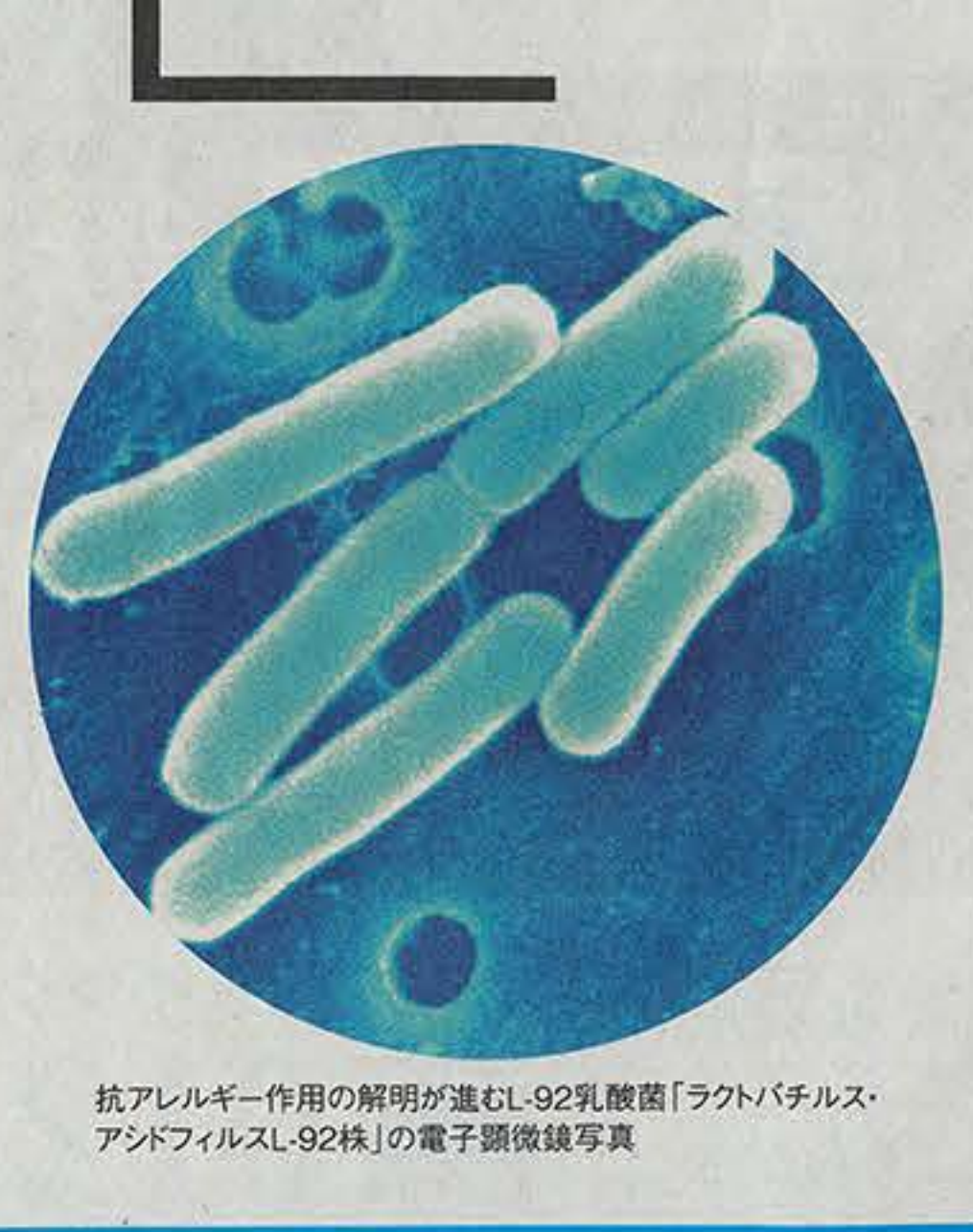


アレルギーの新しい予防法や対策を発信するアレルギーケアフォーラム 正式名称は「環境・生活習慣型アレルギーケアフォーラム」。全国のアレルギー研究やアレルギー治療で名高い専門家が発起人となり、2007年11月に設立された第三者機関である。アレルギーを全身の病気にして環境・生活習慣病と捉えて、世の中に役立つ情報を発信している。

アレルギー対策は「まず生活習慣から」 池澤先生/私は、アレルギー症状の改善のためには、従来の西洋医学的なアプローチに加え、生活習慣を見直しカラダ全体のバランスを整えることをおすすめしています。

「L-92乳酸菌」を食した市販食品も 池澤先生/私は、アレルギー症状の改善のためには、従来の西洋医学的なアプローチに加え、生活習慣を見直しカラダ全体のバランスを整えることをおすすめしています。

「L-92乳酸菌」を食した市販食品も 池澤先生/私は、アレルギー症状の改善のためには、従来の西洋医学的なアプローチに加え、生活習慣を見直しカラダ全体のバランスを整えることをおすすめしています。



抗アレルギー作用の解明が進むL-92乳酸菌「ラクトバチルス・アシドフィルス-L92株」の電子顕微鏡写真